

平成十一年七月十五日、お茶の水女子大学名誉教授頼惟勤先生が永眠された。享年七十七歳。

先生は、昭和二十四年五月お茶の水女子大学文学科中国文学専攻発足と同時に非常勤講師に就任、同二十七年四月お茶の水女子大学専任講師になられ、その後同三十四年四月助教授、同三十九年教授に就任された。爾来、昭和六十二年三月本学を定年退官されるまで、三十八年間のながきにわたり教鞭をとられた。

この間先生は中国音韻学、中国古典語学、ならびに江戸時代を中心とする日本漢学の分野で多くの優れた研究業績をあげられたばかりでなく、本学における研究者、教育者の養成にも情熱を傾けられ、多くの人材を世に送り出された。

先生は精緻にして博綜、堅実な学風により、学会においても高い評価をうけ、常に斯界をリードする指導的役割を果たしてこられた。本学会発足に際しても、その設立の中心となられて尽力されたばかりでなく、その後の発展期においても進んで多くの論考を寄せられ、後学に範をたれ、本学会の名を高からしめられた。

お茶の水女子大学退官後は千葉経済短期大学、千葉経済大学等を歴任され、引き続き教学の場にあられたが、これらを平成四年三月に定年退職されてからは、もっぱら説文解字と頼家の伝統を継承すべく家学の研究にいらしておられた。平成九年秋には、長年にわたる学術、教育への功績から勲三等旭日中綬章を受章された。ここにつつしんで先生のご逝去に哀悼の意を表し、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。